

日時： 2025年11月17日（月）13時30分～15時00分

場所： おいでやすコスモス103

出席者		内容	
利用者家族	1名	地域住民・代表者	0名
包括支援センター	2名	合計	5名
高齢介護課	1名	欠席者	2名
介護事業に 知見を有する者	1名	職員 (理事長・所長・事務局長)	3名

1.現況報告 資料①に沿って、所長が説明

質問 ・相談に来られても繋がらなかったのは何故か→同居の方はコスモスの利用が必要だと思っているが、本人の納得が出来ていなかった。

質問 ・登録率52%だが経営的には大丈夫か→経営的には赤字だが一喜一憂せず質の良い介護をする事を考えている。

意見 ・男性独居者も相談にくるが、皆さんと一緒にデイサービスで過ごす事が苦手で、介護認定を受けることにも抵抗がある。あえて説得せず時間をかけて、何かあればコスモスに相談をと伝えている。

意見 ・八幡市人口6万8千人、独居老人7千人（施設利用の予備軍）

2.前回以降の活動と今後の予定

資料②に沿って、事務局長が説明

報告 ・わかたけ保育園来所→コスモスだよりに掲載。子どもたちの歌やプレゼントをいただき利用者さんの嬉しそうな顔を見ることができた。

報告 ・「人のさいご」研修では2種類の講演をしてもらった。1部はオレンジカフェ・民生委員さんを対象にした、介護を受ける人たちへの話。2部はコスモス男山で介護職員を対象にした、介護支援をする人への話を聞いた。京都市内の出版社から「人のさいご」の本の販売が決まったようだ。

報告 ・むつき庵 はいせつ実践報告会→介護の現場では、排泄は大切なこと。コスモス職員も知識を踏まえたうえで対応しているので続けていきたいと思う。

報告 ・「介護の日講演会」は、講師の方が、ご自分のお母さまを看た経験を話された。兄弟3人で方針を考え、できるだけ仕事を続けてもらう。すぐ妻に頼らないなど、参考になる話だった。

3.事業所サ-ビス評価について

サービス評価報告書を、所長が説明

意見 ・トイレに行きたいと言うのは、心理学の世界のようだ→排尿後5分くらいで訴える。最初は行っていた。数分おきに訴えるので話をして気を紛らわせ、時間を見ながら声掛けをしている。排便の時もあるので続けて言われる時は行っている。しかし行っても出ないことがほとんどで、むずかしいテーマである。

質問 ・過去に排泄で失敗がありトラウマになっているとか、自分に関心を向けてほしいサインの可能性はあるか→密に声掛けをしている。以前は特養に入所していた。トイレと言っても、決まった時間まで行けなかった。自らオムツを外しまき散らかす為に、夫が自宅で看ることになった。コスモス利用でオムツをまき散らかす事はなくなった。他の利用者さんにも、自分でトイレに行ってもらおうようにしている。

意見 ・前年度の結果を、カッコ内に表示しているのが良かった。事業所の支援、指導の取り組みが伝わってきた。(その他それぞれの項目についての意見・考察がのべられた。)

意見 「～したい」の実現で、みんなに合わせるのがむずかしいとの回答があるが、皆さんは個別対応されているのでみんなに合わせる必要はないかと思う→ケア会議で同じ意見が出て、皆で確認した。

意見 ・良くやっておられる、有難い。排尿の件もコスモスに預かってもらうようになって、上手くやってもらえている。家では寝る前にトイレへ行くが確率1割。トイレでの排尿に試行錯誤である。コスモスでの沢山の方を看ることの大変さは身をもって感じている。

意見 ・「なぜ、どうしてできないのか」の書かれている意見にも「温かいもの」を感じた。

報告 ・泊りの時は、20時に横になる前にトイレへ行き、3～4時間おきにパットを確認する。一人ひとりの尿の時間が違うので、その方の尿量を共有しながら対応している。

- 意見 ・職員は一人ひとりのパターンを理解している。気になることや情報は職員に教えてもらえます→任せてください
- 意見 ・全体を通して「よくできている」の回答で、皆さんが良くしてくれているのがわかる。できていない点も、話し合いができ、その理由も書いてあるので、来年度に繋げて課題をあげ、改善していくのがよくわかった。
- 意見 ・「質の向上」では、忙しい中で外の研修は無理でも、事業所内の研修に参加しているなど、時間をもって研修していることが良いと思った。
- 意見 ・事業所のサービス向上させる為に、地域住民・市役所・包括の方々と一緒に意見交換していることを知った。色々な視点から見ることで、地域住民の方の介護体験に沿った話をしたり、お互いの情報交換することで新しい気づきがあったり、さらに良い介護に繋がるのではないかと思った。
- 意見 ・自己評価を見て、色々な経験のある話だと思った。「よくできている、なんとかできている」が多いのは良い事だと思う。私的に良いと思うのは、「あまりできていない」などもしっかり書いてあること。チェックが入るというのは、自分のサービス内容として改善点に気付いている。仕事の内容に真摯に取り組みが出来ていないと出てこないことである。
- 質問 ・「日常生活の支援」では、事業所で浣腸はしているか→基本、看護師判断で行う。寝たきりの方で、長期入院中は毎日、浣腸で排便をコントロールしていた。退院後、最初は浣腸していたが看護師が「この方は自然にいける」と浣腸をやめた。看護師・職員が「本人の力で」という事を、手間をかけて徹底する取り組みをしていた。
- 質問 ・「日常生活の支援」目標10個は人によつては5~6個でもいいのでは→家族から言われた事はケア会議で共有している。
- 意見 ・前回、家族から歩かせてほしいとの要望があった。事業所と家族との間で、その過程でケガをしても責任を問わないといった内容の確認書のようなものをかわしてはどうか。
→確認書の件ですが簡単に割り切れるものではない。信頼関係を大切に臨機応変に考えていきたい。
- 意見 ・病院に入院した時に歩かせてほしいと依頼したが、医者から「入院前の生活には戻れない」と言われた。しかし退院してコスモスに通うようになって、今は片手支えで歩けるようになった。今の状態を主治医に見せたい。
→退院後は脚力が不安定だったが、今は本人の状態に合わせて介助し、日によるが掛け声で足を動かしてもらっている。リハビリはできないが、軽く足を動かしている。